台湾映画祭 ✚ 国際シンポジウム

―侯孝賢の詩学と時間のプリズム―

6月25日(土)

会場：愛知芸術文化センター12階 アートスペースA　名古屋市東区東桜1-13-2（「栄」駅下車、オアシス21経由徒歩3分）
（定員180名、申し込み不要、入れ替えなし＊定員を超えた場合、入場をお断りすることがあります）

お問い合わせ：愛知県文化情報センター　Tel. 052-971-5511 内線532　Fax. 052-971-5605　E-mail : bunjo@aac.pref.aichi.jp

このイベントは東日本大震災のチャリティ事業として開催します。入場の際に募金へのご協力をお願いします。

台湾を代表する世界的な映画監督・侯孝賢の作品『悲情城市』『百年恋歌』の上映と侯孝賢監督及び脚本家朱天文氏を囲む

10：00～12：15	映画上映『百年恋歌』（135分）
13：30～16：10	映画上映『悲情城市』（159分）
16：30～18：30	映画祭開催にあたって 前野みち子（名古屋大学教授） 台湾行政院文化建設委員会代表

座談会「侯孝賢監督と朱天文氏を囲んで」
司会／藤木秀朗（名古屋大学教授）
葉月瑜（香港・バプテスト大学メディア学部教授）
盧非易（台湾・政治大学メディア学科副教授）
池側隆之（名古屋大学准教授）
通訳／小坂史子、秋山珠子

6月26日(日)

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール　名古屋市千種区不老町（地下鉄名城線「名古屋大学」下車すぐ）
お問い合わせ：星野幸代　E-mail : hoshino@lang.nagoya-u.ac.jp　URL http://www.nagoya-u.ac.jp/

入場無料

9：30　**開会挨拶**　前野みち子（名古屋大学教授）

9：45～10：45　**基調講演**
藤井省三（東京大学教授）「『百年恋歌』の中の台湾百年史」

11：00～12：00　**基調講演**
張小虹（台湾大学教授）「Shotと Milieu」

～昼休み　1時間20分～

13：20～14：20
陳儒修（台湾・政治大学メディア学科副教授）
「[二十年後の]『悲情城市』再考―音声、映像、時間、空間」
コメンテーター／藤木秀朗（名古屋大学教授）

14：30～15：30
ジェームズ・アデン（ゲティスバーグ大学准教授）
「侯孝賢の『悲情城市』―国の内と外の文化大使」
コメンテーター／ダレル・ウィリアム・デイヴィス
（香港嶺南大学視覚研究学科名誉副教授）

15：40～16：40
ミツヨ・ワダ・マルシアーノ
（カールトン大学准教授、国際日本文化研究センター研究員）
「侯孝賢の歴史との対話―『珈琲時光』」
コメンテーター／廖炳恵（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）

17：00～18：30
ラウンドテーブル「侯孝賢の詩学と時間のプリズム」
司会／藤木秀朗
パネリスト／藤井省三、張小虹、陳儒修、廖炳恵、ジェームズ・アデン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ、ダレル・ウィリアム・デイヴィス
通訳／秋山珠子、三輪泰子、許時嘉

総括　及び　閉会の辞
前野みち子、薛化元（財団法人自由思想学術基金会）

■侯孝賢（ホウ・シャオシェン）

1980年代に台湾ニューシネマの旗手として登場して以来、数々の国際映画祭で高い評価を受け、いまや世界に名高い巨匠として知られる台湾を代表する映画監督。1947年、広東省に生まれ、生後まもなく台湾に移住。1972年に国立芸術専科学校卒業後、脚本家、助監督を経て1980年に『ステキな彼女』で監督デビュー。『風櫃の少年』（1983年）と『冬冬の夏休み』（1984年）で連続してナント三大陸映画祭グランプリ、次作『童年往事』ではベルリン国際映画祭・国際映画批評家賞を受賞し、一躍脚光を浴びる。1989年の『悲情城市』ではヴィネチア国際映画際で金獅子賞。この作品に『戯夢人生』（1993年）と『好男好女』（1995年）を合わせて歴史３部作といわれる。2000年代に入っても、小津安二郎生誕100年祭に寄せた『珈琲時光』（2003年）や今回上映する『百年恋歌』（2005年）をはじめ、斬新で意欲的な作品を次々と発表し続けている。

■朱天文（チュー・ティエンウエン）

1956年8月台湾、高雄鳳山生まれ。父は作家、母は翻訳者、妹二人も文筆家という文学一家として知られる。16歳で小説家としてデビュー、短編小説で数々の文学賞を獲得する。1994年には初の長編小説『荒人手記』にて第一回時報文学百万小説賞を受賞。自著が映画化された際、助監督であった侯孝賢と出会い、『風櫃の少年』（83）以降侯監督作品のパートナーとなる。『悲情城市』の脚本では朱天文がシーン割りを執筆、呉念真（作家・脚本家・俳優）が台湾語でセリフをつけている。『百年恋歌』は侯孝賢との共同執筆。『安安の夏休み』、『世紀末の華やぎ』、『荒人手記』などの小説が邦訳されている。